

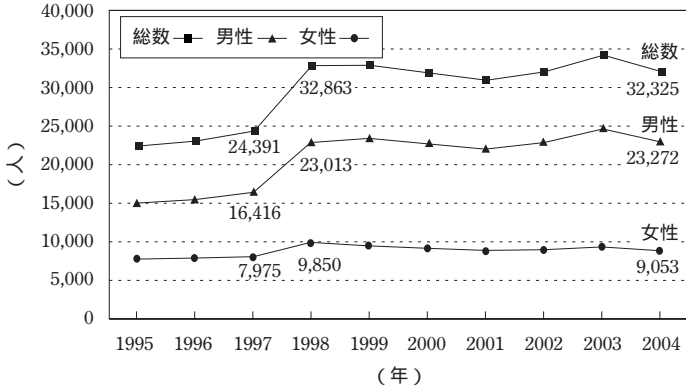
わが国の自殺の現状

精神保健の観点からいうと、わが国には重要な課題がいろいろあります。たとえば、児童の問題、どんどん増える拒食症の問題、国民の五人に一人が何らかの睡眠薬を飲んでという睡眠障害の問題、最近のさまざまな災害などで発生する外傷後ストレス障害（PTSD）の問題などがあります。それ以外にも、自殺と、自殺と関連の深いうつ病への問題があり、これらへの対策を打ち立てていく必要があることが、国会でも議論されています。

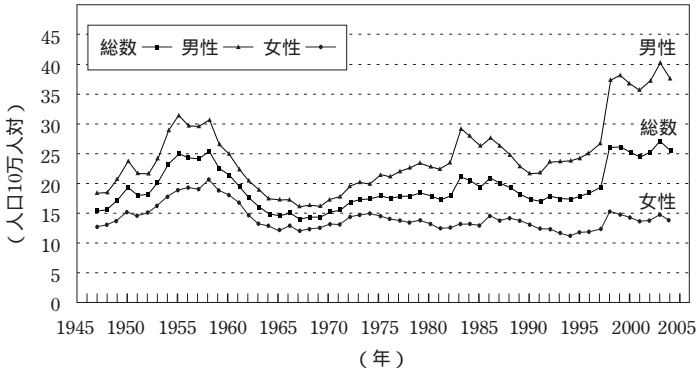
自殺は平成十年から急に増えてきました。戦後早々からの統計をみると（図1）、終戦直後に大きなピークが一つあり、その後もう一つピークがあり、そして平成十年からは上がり続けています。それぞれの時期に、いろいろな特徴と傾向があるといわれていますが、平成十年以降の大きな特徴は、四十歳代から六十歳代という働き盛りの男性の自殺が急増していることです。国際的にみても、ユーラシア大陸やロシア、東ヨーロッパ、それから中国と日本などでは人口十万人あたり十五人以上の自殺者があり、先進八か国では、日本はロシアに次いで二番目と著しく高い自殺死亡率となっています。

わが国では以前から、高齢者の自殺が非常に多いといわれており、その対策が急がれていました。これは、現在でも大きな問題の一つとなっています。そして、最近の傾向

近年の自殺死亡実数の推移



自殺死亡率の推移



自殺死亡率：人口10万人あたりの自殺死亡者数

図1 わが国の自殺死亡の推移 年間3万人を超える自殺者がでるようになったのは1998年以降である。今回の自殺の特徴は増加が男性のみであること、増加の年代が40～60歳の働き盛りであることにある

として、比較的若い二十歳代から三十歳代にかけての男性で増えていることが問題です。女性ではほとんど変化していません。

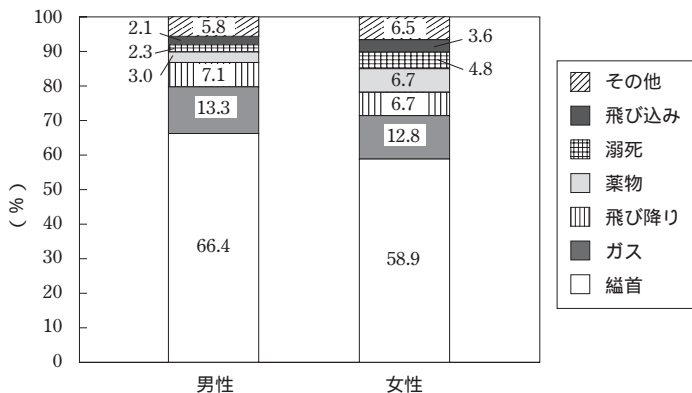
自殺の原因と動機

自殺の原因や動機、その背景はたいへん複雑で、一言では申し上げることはできません。ほんとうの原因を明らかにすること自体、非常に困難です。したがって、ここでは警察庁の統計資料をもとにお話しさせていただきます。まず、原因・動機の第一は健康問題、第二が経済的あるいは生活の問題です。これらが平成九年から十年にかけて急に上がり、その後ほとんど同じような水準で推移しています。経済的あるいは生活の問題が前年比一七パーセントの急上昇です。それと比較すると健康問題は数字はやや小さいのですが、一二三パーセントの伸びです(図2)。

経済的な問題を無視することはできませんが、それだけですべてが解決できるわけはなさそうです。また、健康問題だけをとりだして対策をうてば何とかなるといったことでもないことが徐々に明らかになってきています。

古くから自殺の背景として、何らかのこころの問題があるといわれてきました。ここで、急上昇する前の少し古いデータですが、こころの問題を抱えている人の割合を調査

人口動態調査



自殺の原因・動機(年次推移)

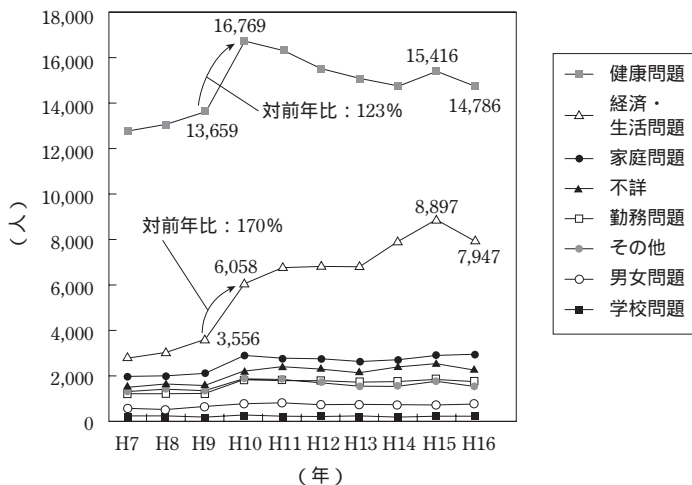


図2 自殺の原因・動機・手段(平成16年中における自殺の概要資料 警察庁)